

第1388回 京都市教育委員会会議 会議録

1 日 時 平成30年2月8日 木曜日
開会 10時00分 閉会 11時30分

2 場 所 京都市役所内 教育委員室

3 出席者	教 育 長	在田 正秀
	委 員	星川 茂一
	委 員	鈴木 晶子
	委 員	高乗 秀明
	委 員	笹岡 隆甫
	委 員	奥野 史子

4 欠席者 なし

5 傍聴者 0人

6 議事の概要

(1) 開会

10時00分、教育長が開会を宣告。

(2) 前会議録の承認

第1387回京都市教育委員会会議の会議録について、教育長及び全委員の承認が得られた。

(3) 議事の概要

ア 議事

議案1件

イ 非公開の承認

議案1件については、市長の作成する議会の議案に対しての意見の申出及びその他の関係機関と協議等を必要とする事項に関する案件のため、京都市教育委員会会議規則に基づき、非公開とすることについて、全委員の承認が得られた。

ウ 非公開の宣言

教育長から、以下の報告1件について、会議を非公開とすることを宣言。

エ 議決事項

議第35号 教育に関する事務に係る平成30年度京都市一般会計予算について

(事務局説明 榎木 総務課長)

30年度の教育予算については、1094億5600万円で、その内訳として学校及び教育委員会事務局の運営費が145億3400万円余り、建物等施設整備費が150億9100万円余り、人件費が798億3000万円となっている。

平成29年度当初予算と比較すると約21億円の増額となっているが、これは、向島秀蓮小中学校や京北地域小中一貫教育校、新しい普通科系高校整備の進捗などによるものである。

京都市の財政状況は、社会福祉関連経費や投資的経費について一定の伸びが見込まれ、350億円にものぼる財源不足が見込まれる大変厳しい状況であり、教育委員会には約11億円の削減ノルマが課せられていたところである。

しかし、「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」という教育理念のもと、教員の働き方改革など新たな課題にも対応しつつ、「学力向上」の取組、「豊かな人間性」の育成、「開かれた学校づくり」、「全市的な学習環境の充実」を柱とし、経済状況や家庭環境にかかわらず、全ての子どもに「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育の更なる充実を図ることができるような、また、生涯学習についても、あらゆる世代の方が自ら生涯を通じて学び、その学びをまちづくり、地域・子どもたちに還元することのできるような予算案とした。

主な新規・充実事業を中心に説明させていただく。

「学習指導の充実」のうち、新学力向上アクションプランの推進では、引き続き、学力向上対策を重点課題として位置づけ、国基準を上回る教職員配置による少人数教育等の推進については、市独自予算による小学校2年生の35人学級、中学校3年生の30人学級を引き続き実施するとともに、小学校における少人数教育充実のための教員配置や低学年の指導充実のためのチーム・ティーチング、中学校における習熟度別授業充実のための教員配置等についても、継続実施する。平成32年度からの新学習指導要領の全面実施を見据え、授業改善のための新しい学習手法や、プログラミング教育などを研究テーマに、必要な指導体制や指導方法の実践的研究を実施する。

「学校における働き方改革」の一環として、現在、本市独自措置により小学校6年生に配置している専科指導を行うスクールサポーターを5年生にも配置を拡充し、負担軽減を図る。

教職員の資質・指導力向上と働き方改革では、「学校における働き方改革」推進のた

めの環境整備として、パソコンを活用したバーコード方式による出退勤管理システムの導入、教務主任補佐の配置を4名から8名へ倍増、教員の事務的な業務をサポートする校務支援員36名の新規配置、更なる負担軽減につなげるための部活動指導員50名の配置、専科指導のためのスクールサポーターの配置充実などの取組により、全学校・園において教員の働き方改革を推進する。

社会的・職業的自立に向けた「生き方探究教育」の推進では、「京都まなびの街生き方探究館」が平成30年度に開館10周年を向えることを契機として、記念事業を実施する。

文化庁移転に向けた伝統文化教育の充実では、平成30年度が明治改元150年となるため、それを記念して中学校総合文化祭において明治150年をテーマとした展示等を実施する。

また、英語教育の充実では、小学校外国語活動の早期化・教科化に伴う授業時数増や小中学校間での円滑な英語教育の接続の充実を図るため、また、高校でのコミュニケーション力の向上による高度な実践的英語力の育成に向け、外国語指導助手（ALT）の配置を拡大する。

さらに、障害のある幼児・児童・生徒の教育の充実では、平成30年度から制度化される高校段階における「通級による指導」を開始するために、新たに通級指導担当教員を2名配置する。また、障害に係る専門知識だけではなく、医療・福祉の専門知識を有するコーディネーターを総合支援学校に1名配置し、学校内において児童生徒への適切な指導・支援について教員への助言を行うとともに、医療・福祉等の関係機関との連携強化を行う。

国語力・読解力の向上では、現在の「第3次京都市子ども読書活動推進計画」が30年度末で終了するため、次期計画の策定に着手する。

理科・環境教育の充実では、青少年科学センターにおいて、地球規模で気候変動や環境問題を学ぶことができる科学地球儀を、京都大学との連携により設置する。

国際化に対応した教育の推進では、外国にルーツを持つ子どもの保護者が小学校入学前に小学校生活について知ることができるように「多言語による小学校生活スタートガイド」を作成・配布する。

「児童・生徒の健全育成」として、いじめ・不登校対策など生徒指導・教育相談の充実では、既に全校配置が完了しているスクールカウンセラーについて、配置時間数を計画的に拡大するとともに、スクールソーシャルワーカーについても配置校数を拡大することにより、児童相談所等関係機関との連携など社会福祉の観点からも子ども・家庭の支援を行う。

しなやかな道徳教育総合実践推進事業では、30年度から小学校において道徳が教科化されることを踏まえた指導方法や評価に関する実践研究の推進や中学校の教科書採択の実施、本市独自の指導計画「京都市スタンダード」を作成することなどにより、「しなやかな」道徳教育の一層の進展を図る。

食育の充実では、「焼き物」を含め幅広い和食の調理法に対応が可能なスチームコンベクションオーブンを5年計画で小学校全校に設置することによって、和食の更なる充実を目指す。30年度は5年計画の2年目である。

健康教育・子どもの体力向上推進では、外部コーチの配置を継続するとともに、「学校における働き方改革」推進に係る事業の一環として部活動指導員を配置する。

「高等学校教育の充実」では、明治改元から150年の節目の年を記念して、明治13年に創設された我が国初の画学校を前身とする銅駝美術工芸高校の卒業生等ゆかりの画家の寄贈品等の所蔵作品を時代区分に応じて展示する作品展を開催する。

「教育環境の整備充実」として、学校新增改築事業では、児童数が増加傾向にある右京区の西院小学校について、増築棟などの整備のための基本計画を策定する。また、総合支援学校の児童・生徒が増加傾向にあることを踏まえ、呉竹総合支援学校の増収容対策のための基本計画を策定する。

学校施設等の教育環境整備として、京都府の「豊かな森を育てる府民税市町村交付金」を活用し、平成31年度に開校予定の向島秀蓮小中学校において府内産木材であるみやこ杣木を活用した物品整備を実施する。また、校舎の構造躯体である柱や壁などのコンクリート強度等の耐久性を確認するため、学校施設マネジメント基本計画及びに行動計画に基づき、「構造躯体の健全性調査」を実施し、学校施設の長寿命化を推進する。

「生涯学習の推進」のうち、各種生涯学習事業では、平成31年度の国際博物館会議京都大会の開催に向け、博物館ガイドブックの改訂や本市独自の謎解きイベントやスタンプラリーなどのプレイベントを実施することにより、大会開催に向けた市民ぐるみの機運の醸成を図る。

生涯学習総合センター・図書館運営では、明治150年を記念して、生涯学習総合センターにおいて記念事業を開催する。また、京都府の「豊かな森を育てる府民税市町村交付金」を活用し、みやこ杣木を活用した「古典の日記念 京都市平安京創生館」の展示品や図書館の整備を実施する。

学校歴史博物館運営では、先ほど申し上げたとおり、平成30年度が明治150年であり、また学校歴史博物館の開館20周年となるため、それを記念した様々な企画展を開催し、同時に31年度の番組小学校創設150周年にもつながるイベントとする計画である。

最後に、青少年科学センター市民化学事業として、設置後20年以上経過したプラネタリウムについて、最新の投映機等にリニューアルし、リアルな映像空間を表現できるプラネタリウムとする。なお、設置工事等に一定の期間を要するため、リニューアルオープンは32年度になる予定である。

(委員からの主な意見)

【奥野委員】部活動指導員は現在どのぐらいの人数がいて、どのような効果が上がって

いるのか。また、任用にあたっての人選はどのように行うのか。

【事務局】平成29年度下半期から5名を試行的に配置しており、休日の引率等を担っていただくことで、教員の負担が減ったと聞いている。

人選にあたっては、各校で探していただく予定であり、現在外部コーチをされている方などをお願いすることなどが想定される。また、各校に配置されている非常勤講師に担っていただくことも想定される。

【笹岡委員】引率指導などを行う中で、市域外に出ることもあると思うが、責任の所在等はどのような取扱いになるのか。

【事務局】部活動指導員は本市の非常勤嘱託職員として任用するため、問題が起こった場合などには本市が対応することとなる。

【高乗委員】医療福祉コーディネーターはどこに配置するのか。

【事務局】総合支援学校に配置し、医療機関や、福祉施設等と連携を図る予定である。

【高乗委員】高等学校における通級指導の実施にあたり、2名配置するとのことだが、具体的な配置校や業務内容は。

【事務局】高等学校における通級指導については、今年度に文部科学省の委託事業を受託し、研究等を行っており、その中で、特に定時制でニーズが高いことが分かったため、1名は伏見工業高等学校定時制に配置する予定である。もう1名は他の高等学校の巡回指導を行うとともに、総合支援学校とも連携しながら引き続き研究をしていただく予定である。

【星川委員】高等学校における通級指導の実施方法は。

【事務局】小・中学校での通級指導は抽出指導だが、高等学校段階になると、抽出で授業を受けることに抵抗を感じる生徒や保護者が多くなる。また、障害受容や自覚が伴っていないことも多い。当面は、通常の授業はそのまま受けつつ、課程外や、授業選択の中でソーシャルトレーニングや自己認知を行うところから進めていく。

【星川委員】呉竹総合支援学校の増収容対策について、児童・生徒数の増加の状況や傾向は。

【事務局】大まかな傾向として、全市的に育成学級に在籍する児童生徒が増加傾向にあり、同じく総合支援学校の児童生徒数も、段階的に増加していく見込みである。市全体での増収容対策の観点とともに、呉竹総合支援学校は施設の老朽化への対策という観点から対応が必要である。

【在田教育長】総合支援学校全体の推計としては5年後ぐらいに大きく増える見込みであり、計画的に対策を講じないと間に合わない。呉竹総合支援学校の取組だけではなく、更なる対策の検討が必要であると考えている。

【高乗委員】スクールソーシャルワーカーの配置拡大について、配置校数や人数の状況を教えてほしい。

【事務局】現在40校に配置しており、30年度は51校への配置を行う。「はばた

け未来へ！京プラン」実施計画に基づき、３２年度には全中学校区へ１名配置していく予定である。

【高乗委員】福祉職としての専門性と、学校教育への理解が必要になるため、優秀な人材の確保が難しいが、頑張してほしい。

【鈴木委員】理科教育について、近年は実験観察の指導等に携わる人材の確保が難しくなっていると聞く。理科観察実験支援員の取組の状況を教えてほしい。

【事務局】研修を行うなど、指導内容の充実等を図っている。

【在田教育長】従来、国から全額補助を受けて実施してきた事業であるが、補助の割合が段階的に下げられており、そのような中でも当初の規模を維持している。今後、理科の学力の状況等も踏まえながら、充実を検討していきたい。

（議決）

教育長が、議第３５号「教育に関する事務に係る平成３０年度京都市一般会計予算について」について、各委員「異議なし」を確認、議決。

（４）その他

○教育長から、前会会議以降の主な出来事等について報告

１月２５～２６日 第１２回小中一貫教育サミット

１月２７日 第４回京都市立高等学校英語プレゼンコンテスト

２月４日 第１２回 科博連サイエンスフェスティバル

１月４日 京博連創立２５周年記念シンポジウム

２月７日 教育福祉委員会

○事務局から当面の日程について説明

（５）閉会

１１時３０分、教育長が閉会を宣告。

署 名 教育長